南山っ子通信

長崎南山小学校
学校生活だより
令和２年２月号
担当（山田）
NO.87

聖トマス・小崎から母への手紙

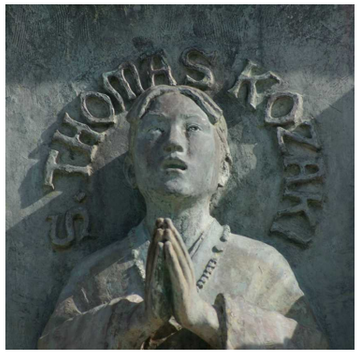
神の御助けにより，この手紙をしたためます。パードレ以下われわれ二十四名は，列の先頭を行く制札に書かれた判決文のように，長崎で磔刑を受けるため，ここまでまいりました。私のこと，またミゲル父上のこと，ご心配くださいませんように。パライソですぐお会いしましょう。お待ちしております。たとえパードレがいなくても，臨終には熱心に罪を痛悔し，イエズス・キリストの幾多の御恵みを感謝なされば，救われます。この世ははかないものですからパライソの全き幸福を失わぬよう，努力なさいますように。人からどんなに迷惑をかけられても耐え忍び，すべての人に大いなる愛徳を施されますように。私のふたりの弟マンシオとフェリペを，どうか異教徒の手に渡さぬよう，ご尽力ください。私は母上のことをわれらの主にお願いいたしましょう。母上から私の知っている人々によろしく申し上げてください。罪を痛悔するのを忘れぬよう，再び重ねて申し上げます。なぜなら唯一の重大なことなのですから。アダムは神にそむき，罪を犯しましたが，痛悔とあがないによって救われました。

※パライソ（天国）　パードレ（司祭）

１５９７年２月５日，豊臣秀吉の命により長崎の西坂の丘で磔の刑に処せられ，信仰を守るために尊い血を流した２６人のキリシタンの中には１０代前半の３人の少年たちがいました。トマス小崎もその中の１人で，京都で一番初めに捕らえられた５人の中の１人でもありました。後に加わった２人を合わせた２６人は，長崎までの寒い雪の道のりをみせしめのために歩かされました。

安芸の国（広島）の三原城に着いたとき，トマス小崎は牢番の親切で母親に宛てて手紙を書きます。上記の文がその中身です。

この手紙は，いっしょに捕らえられていた父ミゲル小崎に託されましたが，京都に届ける術がなく，ミゲル小崎はこれを懐に持ったまま殉教しました。殉教者の遺体は８０日間さらしものにされましたが，その後，血に染まったこの手紙がミゲル小崎の遺体から発見され，人々の涙を誘ったということです。



２６人の中には，洗礼を受けて一年に満たない者もおり,外国人の司祭や修道者を除いては，長い間信仰教育を受けた者は少なかったようです。少年トマス小崎も同じですが，この手紙には，驚くほどの深い信仰心が表されています。仇を討つこと，敵を殺すことが常識であった世の中にあって，自分を殺そうとしている者に恨みを抱かず進んで赦そうとする心，罪を遠ざける心，善行を勧める心，母親と幼い弟たちを思うやさしさ，天国の幸せを願う心，そういった深い信仰心がトマス小崎の手紙から読み取れます。現代に生きるわたしたちが学ばなければならない多くのことが，この手紙にはしたためられているようです。

毎年２月の第一水曜日に計画されている５年生による日本２６聖人殉教者の朗読劇は，今年はちょうどその記念日に当たる２月５日に行われました。２６人のキリシタンの殉教が過去の出来事や歴史の一幕として受け取られるのでなく，現代のわたしたちに伝えるもの，そして，そこから学ぶことは何なのかを考える時間にできると，立派に演じた５年生の朗読劇の意味合いもさらに高まるものと思われます。

安全運転にご協力を！

正門（キリンさんの門）を通過し校舎前の第二駐車場まで進む間には「止まれ」の表示が３か所あり，「最徐行」の標識もあります。こども園の園児や小学校の児童が頻繁に行き来する学園の構内ではより一層安全運転に心がけてハンドルを握ってもらいたいと思います。特に，「止まれ」の箇所では必ず一時停止をし左右の安全確認をお願いします。

ところで，道路交通法では「徐行」とは「車両等が直ちに停止することができるような速度で進行すること」とされているそうです。明確な速度は定められてはいないそうですが，構内では時速１０ｋｍを超えることがないようにお願いしたいと思います。

「最徐行」という言葉は正式にはないそうですが，「徐行よりさらに気をつけて通過してほしい」という強調の際に使われているようです。そういった意味からすると，正門を入ったら「最徐行」での運転をお願いしたいと思います。

少し薄くなってしまった敷地内の標識や路面の表示を新しくする工事が近々予定されています。安全運転に対する私たちの気持ちもお互いに今一度新たにしたいと思います。よろしくお願いいたします。

♧♧ 教 室 紹 介 ♧♧

２年２組　担任　松永 麻里子 先生

そろえよう
・心をこめてささげるいのり
・明るい歌声　いのる気もちを聖歌にこめて
・ととのったれつ・つくえ・ロッカー・くつばこ

学級目標を達成しようと1年間みんなでがんばってきた２年２組です。元々明るくて素直な子どもたちですが，がんばりを重ねるうちに，話をよく聞き，静かに待つべき時と活発に意見を交わし合う時のメリハリを付けた学習ができるようになってきました。また，学び合いの中で新たな考えを生み出す学びの力も随分と付いてきています。

外遊びが大好きな子どもたちは，なわとび検定が終わってからでも積極的に練習を続け技能を高め合っています。学習発表会では，"momotaro"の練習に意欲的に取り組みました。自分の台詞ばかりでなく友達の台詞まで英語で覚えるくらいに練習して，本番でも立派に発表することができました。

２年生の楽しい思い出をいっぱい作ってきた子どもたちに，麻里子先生は「３年生になったらもっともっとマナーを守り，気持ちのよい挨拶も自然とできるようにがんばってほしい」と期待しています。

♪トマス小崎（日本26聖人殉教者の一人である14歳のトマス小崎が母に宛てた手紙）

1.冷たいひと夜の 板の上
故郷の母に 送る文
涙に文字も 潤みきて
思わずまぶた 抑えたり

2.母さまわたしは 父さまと
一足先に 御あるじの
御もとに召さるる 晴れの旅
何の苦しいものでしょう

3.さらば母さま お元気で
わたしの最後の このことば
ゆめ忘れますな 天国で
ふたたびお目に かかるまで